

「大変われしく思う」 「施策に明るく適任」

県関係国会議員 5氏が祝意

2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、遠が25日、五輪相に就任した員5氏は山形新聞の取材に

「大変われしく誇りに思う」「スポーツ施策に明るく適任」などと述べ、与野党問わず祝意を示した。

同じ自民の衆院議員として、鈴木憲和氏(県2区)は「山形県からの五輪相就任を大変われしく誇りに思う。施設の建設など課題は山積しているが、人脈を生かしリーダーシップを発揮してほしい」、加藤鮎子氏(県3区)は「同じ政策グ

ループ有隣会に所属し、身近に接してきたが、慎重に言葉を選びながらこの日を待っていたことと思う。活躍を確信している」とそれぞれ期待を寄せた。

民主の近藤洋介氏(比例東北)は「遠藤氏は文部科学行政とスポーツ施策に明るく、五輪相として適任。大会開催の効果が日本全体に波及するよう尽力してほしい」と歓迎した。

自民の参院議員は岸宏一氏が「県内から久しぶりに大臣が誕生し、県民に喜びと元気を与えてくれた。これまでの努力が実り、心からの祝意を表したい」、大沼瑞穂氏は「北海道・東北で唯一の閣僚で、日本全体の経済が上向きよう活躍してほしい。カヌーなどの五輪競技で、キャンプの県内誘致につながれば」と述べた。